

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	Java応用	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	実 習	
履修区分	必 修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	これまで学習してきたJavaの技術と、本科目を通してより実践的なJavaの技術を用いてオリジナル制作を行います。単にプログラミングを行い制作するだけでなく、実用化も考え不具合を取り除き、ユーザビリティも考慮した作品に仕上げることを目標とします。			
到達目標	Javaを使用し、実用化を目標とした成果物を1から作り上げることが出来る。			
教科書・教材	Java 第3版 実践編 アプリケーション作りの基本／翔泳社			
授業計画	回	内 容		
	1	Java活用編～GUI～		
	2	Java活用編～コントロールの応用～		
	3	Java活用編～コントロールの活用～		
	4	Java活用編～ファイル操作～		
	5	オリジナル制作 (要件定義)		
	6	オリジナル制作 (設計)		
	7	オリジナル制作 (設計)		
	8	オリジナル制作 (コーディング)		
	9	オリジナル制作 (コーディング)		
	10	オリジナル制作 (コーディング)		
	11	オリジナル制作 (コーディング)		
	12	オリジナル制作 (テスト)		
	13	オリジナル制作 (テスト)		
	14	オリジナル制作発表準備		
15	オリジナル制作発表			
授業の進め方・履修の心構え	これまで2年間学習してきたJavaの知識・技術が身に付いていることが前提となります。実習形式の授業なので、解説以外の時間は自主的に計画を立てて制作を進めましょう。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	アプリ制作 I	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	JavaScriptの基本的な学習及び、簡単なアプリを作成できるようになる為、JavaScriptを用いたスマートフォンアプリの開発を学習します。			
到達目標	アプリを作成する基礎知識を身に着ける			
教科書・教材	3ステップでしっかり学ぶ JavaScript入門/ (株)技術評論社 Monacaで学ぶはじめてのプログラミング～モバイルアプリ入門編～/アシアル(株)			
授業計画	回	内 容		
	1	JavaScriptの基礎知識		
	2	変数と演算について/条件判断と繰り返し/ユーザー定義関数の作成		
	3	オブジェクトの操作/配列データの管理/Webオブジェクトについて		
	4	DOMの操作/AjaxとjQuery		
	5	Canvasでの描画		
	6	WebStrage		
	7	並列処理とメッセージング		
	8	MONACAの使い方		
	9	スマホ独自機能		
	10	ゲームを作ろう		
	11	ゲームを作ろう		
	12	アプリ開発設計書作成		
	13	アプリ開発設計書作成		
	14	アプリ開発設計書作成		
15	アプリ開発設計書作成			
授業の進め方・履修の心構え	教科書とそれに準じた問題を作成する事で、javascriptを実践形式で身に着ける 分からないことは自分から聞いてください (自分から発信できるようになって欲しいです)			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	セキュリティ実践演習	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の實務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目では、これまで学んだネットワーク、サーバ、セキュリティの知識を実際にどのように活用するか、実機を用いて学習します。また、サーバ構築やネットワーク設定、Webサービス等におけるセキュリティについても学習することで、実務環境を構築するために必要な知識も習得していきます。</p>			
到達目標	<p>セキュリティ対策を意識したシステム環境を理解する。</p>			
教科書・教材	<p>おうちで学べるセキュリティのきほん/㈱翔泳社</p>			
授業計画	回	内容		
	1	最新のセキュリティトレンド		
	2	最新のセキュリティトレンド		
	3	セキュリティ事例研究		
	4	セキュリティ事例研究/発表		
	5	インターネットのセキュリティ		
	6	インターネットのセキュリティ		
	7	サーバのセキュリティ		
	8	サーバ構築演習		
	9	サーバ構築演習		
	10	サーバ構築演習		
	11	Webサービスへの攻撃手法演習		
	12	Webサービスへの攻撃手法演習		
	13	セキュリティ10大脅威研究		
	14	セキュリティ10大脅威研究		
15	セキュリティ10大脅威研究/発表			
授業の進め方・履修の心構え	<p>教科書やスライドをもとに解説をし、適宜パソコンを使用して演習を行います。成果物については必要に応じて提出してもらいます。</p>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数</p>			
評価基準	<p>S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点</p>		<p>C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	システム改修	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	必 修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目ではシステムを構築していきます。要件定義が出来上がっている仕様書をもとに、画面設計、プログラム詳細設計を書き起こし、その通りのコーディングを行います。単体テストや結合テストを十分に行い致命的なバグはないか、何をどうすれば理想的なシステムに近づくのかを学習します。グループ作業に慣れることも含まれます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を考え仕様を作成できる ・グループ作業でプロジェクトの進捗を管理できる ・作業中、バグの発生を予防できる或いはバグ発生時に適切に対処できる 			
教科書・教材	オリジナル			
授業計画	回	内 容		
	1	要件定義について取りまとめ、役割分担 (ブレンストーミング)		
	2	要件定義書から外部設計 (画面設計) の書き起こし		
	3	要件定義書から外部設計 (画面設計) の書き起こし		
	4	要件定義書から外部設計 (画面設計) の書き起こし		
	5	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし		
	6	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	7	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	8	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	9	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	10	単体テスト		
	11	単体テスト		
	12	結合テスト仕様作成		
	13	結合テスト実行		
	14	総合的反省		
15	総合的反省			
授業の進め方・履修の心構え	<p>グループ作業での進捗管理、協調体制を築きあがられるようグループ分けを考え、構築中は毎日進捗を管理してできる限り完成できるように調整しながら進める</p>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況及び完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点</p>		<p>C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	データマイニング	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	3年次	時間数	30 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	AIとIoTの元となるデータを如何にして収集し活用するのか各業界の実例を参考にデータを扱える人材となることを目的とする。			
到達目標	データマイニング (データアナリスト) としての基本知識と手法を覚える			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	データマイニングとは		
	2	データアナリストとデータアナリティクスの違いとは		
	3	データ分析手法について		
	4	ビッグデータについて		
	5	各種業界のデータの取り扱いと分析手法について		
	6	データ分析① (データ収集)		
	7	データ分析② (データ収集)		
	8	データ分析① (データ蓄積)		
	9	データ分析① (データ分析)		
	10	データ分析② (データ分析)		
	11	データ分析③ (データ分析)		
	12	データ分析① (データ活用)		
	13	データ分析② (データ活用)		
	14	プレゼンテーション①		
15	プレゼンテーション②			
授業の進め方・履修の心構え	身近な事象からデータの収集、分析をしていきます。身近なものを扱うことによりデータのありがたさや奥深さを知る事ができます。エクセルやデータベースが苦手でも学ぶことができます。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 成果物の完成度			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

開講年度	2022年度	科目名	グラフィック応用 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	実 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	これまでグラフィック科目では、ソフトの使い方を通じたデザイン手法、表現について学習してきました。今まで学習した技術を活かして、レイアウトの基本ルールや見る人のことを考えたデザイン、配色やフォント等、より効果的なデザインを取り入れた作品づくりを行います。			
到達目標	デザインの基礎知識やルールを理解し、自分の表現したいもの、伝えたいものを効果的にデザインできることを目標とします。			
教科書・教材	なるほどデザイン 目で見て楽しむ新しいデザインの本。/エムディエヌコーポレーション			
授業計画	回	内 容		
	1	効果的なデザインとは		
	2	レイアウト、配色、フォントの基本		
	3	オリジナルテーマ設定		
	4	オリジナルテーマ設定、ラフ画作成		
	5	ラフ画作成、レビュー		
	6	レビュー後修正、基本デザイン構成の決定		
	7	基本デザイン構成の決定		
	8	デザイン作成		
	9	デザイン作成		
	10	デザイン作成		
	11	デザイン作成		
	12	レビュー		
	13	レビュー後修正、デザイン完成		
	14	発表資料準備		
15	オリジナルデザイン発表			
授業の進め方・履修の心構え	デザインの前提となる基本ルールを理解し、一つ一つのデザインに根拠を持たせるようにしましょう。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

開講年度	2022年度	科目名	HTML応用 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	実 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	PHPはサーバーサイドのWebサイトを構築する言語として多く用いられています。PHPの言語について学び仕組みを理解します。PHPに組み込めるDBであるPostgreSQLについても学び、仕組みを理解します。PHPとDBを連携させてWebアプリケーションを作成する方法を学びます。			
到達目標	PHPとPostgreSQLを理解し、一人でWebアプリケーションを作成できる。			
教科書・教材	講師オリジナルPDF			
授業計画	回	内 容		
	1	Website構築のためのプログラミング言語PHPについて～開発環境構築		
	2	PHPについて～変数・流れ制御文		
	3	PHPについて～配列・連想配列・関数		
	4	PHPについて～フォーム処理・定義済み配列		
	5	PHPについて～ファイル処理		
	6	ファイル処理を使用したフォトログ構築課題		
	7	PostgreSQLについて～DBのPostgreSQLの環境構築とPHPとの連携		
	8	PostgreSQLについて～DBへのデータの挿入・編集・閲覧		
	9	PostgreSQLについて～DBへのデータの挿入・編集・閲覧		
	10	PHPとDBを用いたメッセージ投稿サイト作成		
	11	PHPとDBを用いたメッセージ投稿サイト作成		
	12	単位認定課題／PHPとDBを用いたフォトログ構築課題		
	13	単位認定課題／PHPとDBを用いたフォトログ構築課題		
	14	単位認定課題／PHPとDBを用いたフォトログ構築課題		
15	単位認定課題／PHPとDBを用いたフォトログ構築課題			
授業の進め方・履修の心構え	授業PDFに沿ってPHPの文法や仕組みを学んでいきます。サーバーサイドならではの動きの仕組みを理解して、DBと連携しアプリケーションを作成することができるのが目標です。エラーなどに自分の力で対処する方法を学びます。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定課題による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	AI概論 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	3年次	時間数	30 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	無	
授業・科目情報				
学習目的	AIの基礎知識の復習からAIの利用目的、各種開発・研究におけるAIの利用を学びます。			
到達目標	AIの利用方法・開発・研究分野の考え方・実際の応用例を理解する。			
教科書・教材	基礎から学ぶ 人工知能の教科書 / オーム社			
授業計画	回	内 容		
	1	人工知能の概要		
	2	人工知能の歴史		
	3	機械学習の原理と方法		
	4	機械学習の手法		
	5	知識表現と推論		
	6	ニューラルネットワーク		
	7	深層学習		
	8	進化的計算と群知能		
	9	自然言語処理		
	10	画像認識		
	11	エージェントと強化学習		
	12	人工知能とゲーム		
	13	人工知能のこれから		
	14	人工知能の応用例		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	「AI概論 I」からの継続科目になります。テキストとスライドを利用して学習していきます。Pythonを用いた実装なども行います。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	就職支援	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	4単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	就職準備のための授業です。本科目の中で自分の理想とする職業像をイメージし、就職活動に必須の準備を終了させます。自己分析・企業研究から始まる履歴書完成、エントリーシート準備、面接試験対策など具体的に作業していきます。机上の作業だけではなく、足・目・頭など体を十分に動かして準備していきましょう。			
到達目標	内定取得及び社会人としての基礎を身に付ける			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	送付状の用意、封筒表書き練習、封入方法		
	2	面接練習（個人、一次面接）		
	3	面接練習（個人、二次以降の面接）		
	4	面接練習（集団、オンライン）		
	5	送付状への追加、会社封筒の記入方法、簡易書留		
	6	現状分析		
	7	内定取得者：目標設定と計画／内定未取得者：応募書類の用意と就職試験準備		
	8	内定取得者：目標設定と計画／内定未取得者：応募書類の用意と就職試験準備		
	9	内定取得者：目標設定と計画／内定未取得者：応募書類の用意と就職試験準備		
	10	内定取得者：目標設定と計画／内定未取得者：応募書類の用意と就職試験準備		
	11	内定取得者：目標設定と計画／内定未取得者：応募書類の用意と就職試験準備		
	12	内定取得者：目標設定と計画／内定未取得者：応募書類の用意と就職試験準備		
	13	暑中見舞いの書き方		
	14	就職活動を振り返り作文作成		
15	今後のスケジュール作成			
授業の進め方・履修の心構え	いよいよ就職活動の本番がスタートです。自身でスケジュールを立て、計画的に進めましょう。応募書類作成や面接練習は早に準備するよう心掛けましょう。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 就職活動の積極性による評価			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	一般教養Ⅲ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の實務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	本科目では、「一般教養Ⅱ」に引き続き就職試験対策を行います。筆記試験、適性検査に出題されやすい一般常識問題や、SPI問題について学習します。			
到達目標	就職試験において、筆記試験50点(半分)以上を取得できる。			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	SPI対策 割合		
	2	SPI対策 場合の数		
	3	SPI対策 確率		
	4	SPI対策 推論		
	5	SPI対策 集合		
	6	SPI対策 速さ		
	7	CAB対策 法則性、命令、暗号		
	8	GAB対策 図表の読み取り		
	9	IBM適性検査		
	10	その他の適性検査		
	11	作文		
	12	論文		
	13	プレゼンテーション 準備		
	14	プレゼンテーション 実施		
15	総合テスト			
授業の進め方・履修の心構え	「一般教養Ⅱ」を履修したことが条件となります。計算問題を多く扱うため、今までに学習した解き方の復習が重要となります。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	国家試験対策Ⅳ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	「国家試験対策Ⅲ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に付けていきます。特に基本情報技術者試験の修了認定試験合格者向けに午後問題の演習を中心に行います。			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	2	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	3	午後問題の内容理解と練習 (ソフトウェア)		
	4	午後問題の内容理解と練習 (ハードウェア)		
	5	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	6	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	7	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	8	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (データ構造及びアルゴリズム)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データ構造及びアルゴリズム)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (ソフトウェア開発)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (ソフトウェア開発)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (ソフトウェア開発)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	「国家試験対策Ⅲ」を履修したことが条件となります。今までの学習の結果から、自分の学ぶべき分野を明確にし、対策を行うことが大切です。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 小テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	コミュニケーションⅢ	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	自分の伝えたい情報を効率的に伝達する方法、相手との効果的コミュニケーションの方法など、ビジネスシーンで活用できるプレゼンテーション技術を習得します。			
到達目標	社会人として円滑な対応をするための敬語の使い方、挨拶の仕方、相手に自分の気持ちや考えを伝える力を身に付ける。			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	プレゼンテーションツールの技術①		
	2	プレゼンテーションツールの技術②		
	3	プレゼンテーションツールの技術③		
	4	演習①		
	5	演習②		
	6	論理的思考の基礎①		
	7	論理的思考の基礎②		
	8	論理的思考の基礎③		
	9	論理的思考の基礎④		
	10	論理的思考の基礎⑤		
	11	演習③		
	12	演習④		
	13	演習⑤		
	14	総合演習①		
15	総合演習②			
授業の進め方・履修の心構え	コミュニケーションⅠ、Ⅱを踏まえてプレゼンテーションや論理的な思考の基礎を練習などを行いながら学習します。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) グループワーク、プレゼンによる評価			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	グループワークⅤ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	全学科、全学年を在校生全員を対象して開講。システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行います。			
到達目標	簡単なグループワークを通して相手に自分の気持ちや考えを伝える力を身につけていきます。			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	自己紹介		
	2	グループワーク①		
	3	グループワーク①		
	4	プレゼンテーション		
	5	グループワーク②		
	6	グループワーク②		
	7	グループワーク②		
	8	プレゼンテーション		
	9	グループワーク③		
	10	グループワーク③		
	11	プレゼンテーション		
	12	グループワーク④		
	13	グループワーク④		
	14	グループワーク④		
15	プレゼンテーション			
授業の進め方・履修の心構え	他学年との交流を行い、チームの在り方を学ぶ。最低限の礼儀を守りつつ年齢性別を越えて意見交換をしてもらいたい。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) グループワーク、プレゼンによる評価			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	アプリ制作 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	後 期	授業形態	実 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	「アプリ制作 I」で学習した内容を活かし、さらに深い技術を身に付け、「アプリ制作 I」で制作したアプリよりもさらに高度な作品の完成を目指します。			
到達目標	スマートフォンアプリの制作ができる			
教科書・教材	特になし			
授業計画	回	内 容		
	1	概要説明		
	2	アプリの作成～要件定義～		
	3	アプリの作成～要件定義～		
	4	アプリの作成～設計～		
	5	アプリの作成～設計～		
	6	アプリの作成～設計～		
	7	アプリの作成～製造～		
	8	アプリの作成～製造～		
	9	アプリの作成～製造～		
	10	アプリの作成～製造～		
	11	アプリの作成～テスト仕様書作成～		
	12	アプリの作成～テスト仕様書作成～		
	13	アプリの作成～テスト～		
	14	アプリの作成～テスト～		
15	アプリの評価判定			
授業の進め方・履修の心構え	自分で設計したアプリを制作していきます 設計からテストまで一連の作業が行えるので、アプリを作る技術以外にも身に付けて欲しいです			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) アプリの完成度による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	総合制作	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	8 単位	
学 年	3年次	時間数	240 時間	
開講学期	後 期	授業形態	実 習	
履修区分	必 修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	本科目は、これまでに学んだことの集大成です。プロジェクトを立ち上げてシステム開発に取り組みます。チームメンバーとコミュニケーションをはかり、協力してシステムを完成させます。			
到達目標	本学でこれまで履修した科目で学んだ知識・技術を活かし、チームで成果物を完成させる。			
教科書・教材	特になし			
授業計画	回	内 容		
	1	ガイダンス・プロジェクトの概要説明・制作物の決定		
	2	制作 (要件定義書作成)		
	3	制作 (仕様書作成)		
	4	制作 (仕様書作成)		
	5	制作 (仕様書作成)		
	6	制作 (仕様書作成)		
	7	制作 (コーディング)		
	8	制作 (コーディング)		
	9	制作 (コーディング)		
	10	制作 (コーディング)		
	11	制作 (単体テスト)		
	12	制作 (単体テスト)		
	13	制作 (結合テスト)		
	14	制作 (結合テスト)		
15	制作発表準備・制作発表			
授業の進め方・履修の心構え	毎回の始まりと終わりにチームミーティングを行います。 チーム制作の為、報告・連絡・相談を意識して制作に努める必要があります。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 制作物および制作発表による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

開講年度	2022年度	科目名	プレゼンテーションⅡ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	後期	授業形態	実習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目では、「プレゼンテーションⅠ」で学んだ内容を基に、プレゼンテーションの本質を学んでいきます。</p> <p>プレゼンテーションの本質を学び、仕事・日常生活における人を動かす術を学びます。</p>			
到達目標	総合制作発表で行うプレゼンテーションの資料作成と発表準備を行う。			
教科書・教材	いちばんやさしい資料作成&プレゼンの教本 人気講師が教える「人の心をつかむプレゼン」のすべて/インプレス PowerPoint			
授業計画	回	内 容		
	1	科目説明、プレゼン力演習 1		
	2	プレゼン力演習 2		
	3	プレゼンテーションの本質を		
	4	人を動かすプレゼンテーション 1		
	5	人を動かすプレゼンテーション 2		
	6	実践演習 1		
	7	実践演習 2		
	8	プレゼンテーション資料作成 前編		
	9	プレゼンテーション資料作成 後編		
	10	実践演習 3		
	11	実践演習 4		
	12	練習で自信をつける		
	13	総合演習 1		
	14	総合演習 2		
15	総合演習 3			
授業の進め方・履修の心構え	「プレゼンテーションⅠ」を履修したことが条件になります。ディベートを通して自身の意見を発信し、協調性を高めることが重要です。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況及び完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 総合制作発表におけるプレゼンテーションでの評価			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	ビジネスマナーⅡ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	後期	授業形態	講義	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	社会人として働くうえで、多種多様なビジネスシーンにおける様々なビジネスマナーが存在します。本科目では、社会人としてより早く自立し、円滑に仕事ができるよう知識・スキルを学びます。			
到達目標	卒業後に社会人として、自信をもって行動できる基礎を身に付ける。			
教科書・教材	入社1年目ビジネスマナーの教科書／プレジデント社			
授業計画	回	内 容		
	1	第2章 社内のビジネスマナーとルール1～効率的な仕事の進め方、時間について		
	2	第2章 社内のビジネスマナーとルール2～機材や文房具の使い方		
	3	第2章 社内のビジネスマナーとルール3～一日の時間の使い方、人間関係		
	4	第6章 報告・連絡・相談の基本		
	5	第6章 報告・連絡・相談 実践演習		
	6	第7章 来客対応の基本		
	7	第8章 他社訪問の基本		
	8	第11章 会食の基本～洋食とコミュニケーションの取り方		
	9	第11章 会食の基本～和食とコミュニケーションの取り方		
	10	第11章 会食の基本～立食とコミュニケーションの取り方		
	11	第12章 基本的な慶弔マナー1		
	12	第12章 基本的な慶弔マナー2		
	13	新入社員に割り振られる仕事 実践演習1		
	14	新入社員に割り振られる仕事 実践演習2		
15	新入社員に割り振られる仕事 実践演習3			
授業の進め方・履修の心構え	毎週10分間ずつ作業日報を記録する。 毎週小テストを実施する。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	コミュニケーション応用	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	後期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の實務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	今まで学習したコミュニケーション力を活用しシステムや作品を上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための応用訓練を行います。簡単なグループワークを通して相手に自分の気持ちや考えを伝える力を身につけていきます。社会人として円滑な対応をするための敬語の使い方、挨拶の仕方なども学びます。			
到達目標	社会人として円滑な対応をするための敬語の使い方、挨拶の仕方相手に自分の気持ちや考えを伝える力を身に付ける。			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	コミュニケーションのあり方 (社会、集団) ①		
	2	コミュニケーションのあり方 (社会、集団) ②		
	3	意見を出すための基礎技術①		
	4	意見を出すための基礎技術②		
	5	意見を出すための基礎技術③		
	6	ビジネスコミュニケーションの技術①		
	7	ビジネスコミュニケーションの技術②		
	8	ビジネスコミュニケーションの技術③		
	9	コミュニケーションを円滑に行う資料作成①		
	10	コミュニケーションを円滑に行う資料作成②		
	11	コミュニケーションを円滑に行う資料作成③		
	12	演習②		
	13	応用演習①		
	14	応用演習②		
15	応用演習③			
授業の進め方・履修の心構え	話す、聞くだけでなく、視点からのコミュニケーションを意識した資料作成も含めた授業をおこなします。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) グループワーク、プレゼンによる評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	基本情報技術者受験対策講座Ⅰ	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2単位	
学年	全学年共通	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (ハードウェア)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (情報処理システム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (ソフトウェア)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (データベース)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	7	午前問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略)		
	8	午前問題の内容理解と練習 (データ構造とアルゴリズム)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (データ構造及びアルゴリズム)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (ソフトウェア開発)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	午前免除保持者は午後問題を、未保持者は午前・午後両方に取り組みます。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

開講年度	2022年度	科目名	応用情報技術者受験対策講座Ⅰ	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2単位	
学年	全学年共通	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	<p>応用情報技術者試験合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (基礎理論)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (コンピュータシステム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (技術要素・開発技術)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (システム戦略・経営戦略)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	7	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	8	午後問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略・コンサルティング)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (プログラミング・アルゴリズム)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (システム開発)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (システム監査)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>応用情報技術者試験</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	基本情報技術者受験対策講座 II	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (ハードウェア)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (情報処理システム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (ソフトウェア)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (データベース)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	7	午前問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略)		
	8	午前問題の内容理解と練習 (データ構造とアルゴリズム)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (データ構造及びアルゴリズム)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (ソフトウェア開発)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	午前免除保持者は午後問題を、未保持者は午前・午後両方に取り組みます。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	応用情報技術者受験対策講座 II	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	<p>応用情報技術者試験合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (基礎理論)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (コンピュータシステム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (技術要素・開発技術)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (システム戦略・経営戦略)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	7	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	8	午後問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略・コンサルティング)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (プログラミング・アルゴリズム)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (システム開発)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (システム監査)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>応用情報技術者試験</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格</p>	

開講年度	2022年度	科目名	Javaプログラミング受験対策講座	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、サーティファイ主催Javaプログラミング能力認定試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。各級位の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	Javaプログラミング能力認定試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習 (式と演算子)		
	2	問題の内容理解と練習 (条件分岐)		
	3	問題の内容理解と練習 (繰り返し)		
	4	問題の内容理解と練習 (配列)		
	5	問題の内容理解と練習 (メソッド)		
	6	問題の内容理解と練習 (クラスとインスタンス)		
	7	問題の内容理解と練習 (継承)		
	8	問題の内容理解と練習 (インターフェース)		
	9	問題の内容理解と練習 (多様性)		
	10	問題の内容理解と練習 (カプセル化)		
	11	問題の内容理解と練習 (クラスライブラリ)		
	12	問題の内容理解と練習 (例外)		
	13	問題の内容理解と練習 (スレッド)		
	14	問題の内容理解と練習 (GUI)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。分からない問題は自分で実際にプログラミングし、実行結果を確認して理解を深めましょう。</p>			
目標資格	Javaプログラミング能力認定試験1～3級			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格</p>	

開講年度	2022年度	科目名	MCP受験対策講座	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行います。グレードごとに分かれた試験の問題難易度や出題傾向を理解し、講義形式で試験対策を行います。</p>			
到達目標	<p>マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習（モビリティ）		
	2	問題の内容理解と練習（モビリティ）		
	3	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	4	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	5	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	6	問題の内容理解と練習（データ）		
	7	問題の内容理解と練習（データ）		
	8	問題の内容理解と練習（データ）		
	9	問題の内容理解と練習（データ）		
	10	問題の内容理解と練習（生産性）		
	11	問題の内容理解と練習（App Builder）		
	12	問題の内容理解と練習（App Builder）		
	13	問題の内容理解と練習（ビジネスアプリケーション）		
	14	問題の内容理解と練習（ビジネスアプリケーション）		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点</p>		<p>C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2022年度	科目名	MOS受験対策講座	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	本科目は、マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist) の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行います。各オフィスソフトでグレードごとに分かれた試験の問題難易度や出題傾向を理解し、講義形式で試験対策を行います。			
到達目標	マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist) 合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習 (Word)		
	2	問題の内容理解と練習 (Word)		
	3	問題の内容理解と練習 (Word)		
	4	問題の内容理解と練習 (Word)		
	5	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	6	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	7	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	8	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	9	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	10	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	11	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	12	問題の内容理解と練習 (Access)		
	13	問題の内容理解と練習 (Access)		
	14	問題の内容理解と練習 (Access)		
	15	問題の内容理解と練習 (Access)		
授業の進め方・履修の心構え	出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。			
目標資格	マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist)			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~C は合格、D は不合格	